

第三回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会 議事概要

- 1 日時 令和6年11月22日(金) 10:10-11:35
- 2 場所 出水市役所 1階 多目的ホール
- 3 出席者 出席者名簿のとおり
- 4 議事概要
 - (1) 肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会 会長挨拶
 - (2) 議事
 - 第1号議案
調査(委託)事業の最終報告
 - 第2号議案
任意協議会のとりまとめ
 - 第3号議案
今後の進め方・スケジュール等

第1号議案 調査(委託)事業の最終報告

エイドリームコンサルティング株式会社及び肥薩おれんじ鉄道株式会社より「肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会最終報告(本編)」に沿って説明。

【質疑応答・意見】

(九州運輸局)

「営業収入の推移」について、令和6年と7年の営業収入が「成行予測」の営業収入より増加しているが、その要因はどのようなものなのか。

(肥薩おれんじ鉄道)

営業収入の増加について、令和6・7年は運賃改定の影響が大きい。また、人口予想で15歳から18歳の学生さん世代がその2年間において若干増えるといったものも加味している。

(鹿児島県)

確実に言えることは、しっかりと営業努力をして、かつ社総交を活用した営業収入が成行よりも良い結果となるということ。しっかりと利用促進等に取り組んで社総交も活用させていただければ、成行よりは改善するという結果が試算上

出てきている。

(熊本県)

最終報告書を見ていると、やはり域外から稼ぐ活動をもっと磨き上げるべきだと感じた。他の鉄道での協議でも、様々な方からアドバイスをいただくことは、「鉄道に乗る理由がほしい」ということ。当然に、二次交通を充実させることも大事だが、「鉄道だからこそ見えるもの」といった発想もあるべきかと感じた。

(鹿児島県)

観光、域外の人をどう取り込むか、という営業戦略は重要かと思う。ただし観光で終わりになると今までと変わらない。熊本県の見解のように利用増につながる・稼ぐための施策を深掘りしなければならないと思う。

この検討会議の主目的は遊休資産の活用や二次交通の向上、さらに駅の複合化や利便性の向上など、様々な軸がある中で、その中の一つが観光かと思う。

第2号議案 任意協議会のとりまとめ

(鹿児島県)

本任意協議会のとりまとめに入る。

まず一つ目として、遊休資産の活用や建物設備等のスリム化について、

- ①保有する遊休地等の整理として、遊休地22グループのうち売却益の期待できない18グループの資産は保有を続け、貸し付けなどその他の方策を検討する。売却益の期待できる資産(4グループ:5~6百万円程度)は今後売却する。
- ②建物等のスリム化は維持管理費用と比較して撤去費用が過大であるため、補修が必要となるタイミングで撤去する。

次に二つ目として、利便性の向上、利用者の増加に向けた二次交通との連携・駅舎の複合化等について、

- ③利用の拡大では、鉄道のみではなく二次交通との連携が必要であり、沿線市町でも計画を作成し取り組んでいただいているところだが、運転手不足などによるバス路線の調整は容易ではないことから、地域毎にライドシェアやMaaSの活用など新たな手法の導入を検討する。
- ④駅舎の複合化等による賑わいの創出としては、公共施設等との複合化や利用者の利便性向上に繋がる施設改修等を検討する。

⑤マイレール意識の醸成や地域の方々の鉄道利用の意識を上げていくためにも、地域と連携として、学校・民間事業者と一緒に駅舎の利便性向上や鉄道の利用促進を検討する。

最後に三つ目として、社会資本整備総合交付金の活用について、

⑥社会資本整備総合交付金の活用により、どの程度の効果が発生するかを含め、10年間のシミュレーションを実施した結果、今後10年間で28億円程度の財政負担の軽減が見込めることから、可能な限り早期に社会資本整備総合交付金の活用をすることについて検討する。

(熊本県)

沿線自治体含め、みなさん興味があるのは、社総交を活用することで具体的にどのくらい効果があるのか、ということだと思う。全国の並行在来線・三セク鉄道は皆さん必死になっている。南阿蘇鉄道も計画を作成し、認定をいただいた。今後、再構築をする中で、肥薩おれんじ鉄道がどのようなメッセージを発信していくのか。「やはり本当に地域に必要だ」ということを考えていきたい。

先日、甘木鉄道に乗ったが甘木駅は非常にきれいにされている。当然、沿線が開発されて、人もある程度乗っているという側面はあるが、住民の皆さんと一緒にになって、維持を一生懸命やられている雰囲気をととても感じ、このような鉄道が将来残っていくのだろうと思った。

また、佐敷駅横の図書館では学生が勉強している光景を見た。そういった子ども達や若者が駅の近くで集う場ができればと感じた。

(鹿児島県)

地域住民の方々にとって「大事だ、ありがたい」と思っただけのように、行政・事業者だけでなく、地域の方々とも協力してやっていかないといけない。

別で指宿枕崎線の検討会議も開催しているが、やはり地域の若い方々がその地域を好きになって、さらに移住や定住してもらうようにならないと、その地域は残っていかない。その地域の将来に向けて、子供たち含め住民の方々に、実際に将来ここに住み続ける方々の思いや気持ち・関わりは大事にしていけないと思う。

(九州運輸局)

社総交の活用について検討いただき感謝。令和5年10月の法改正により公

公共交通についても社総交が活用できることとなった。ぜひご活用いただきたい。

また、今後の計画作成や認定手続き等については都度ご相談いただければ、丁寧に対応していく。

(JR貨物)

2024年問題・トラックドライバー不足の話題があるが、最近、通販などの宅配を中心に貨物量が伸びている。九州においても貨物量が増加している。当社は鹿児島向けに年間約25万トンの輸送力を用意している。ぜひご活用いただくようお願いしたい。貨物列車でより多くの貨物を運ぶことで、肥薩おれんじ鉄道の活性化に繋がるよう協力していきたい。

第3号議案 今後の進め方・スケジュール等

事務局より資料（今後の進め方・スケジュール等について）に沿って説明。

(九州運輸局)

12月以降の法定協議会について、委員のメンバーや、協議会の開催回数などどのように想定されているか。

(事務局)

委員について、地方自治体のほか法に定める交通事業者、道路管理者、公安委員会、識者、住民・利用者代表等の方々が考えられる。

協議会の開催回数は議論の状況に応じて、進み方は変わってくると思われる。

※議案第1～3号は委員、全員了承となり原案可決